

ほし
クリスと星のかけら

だい かんくず ゆかへん
～第3巻崩れる床編～



ち ほし あつ せ かい すく
「散らばった星のかけらを集めて世界を救え」

名前

[illegible]

<プロローグ>

こおり と せいじゃく せかい
氷に閉ざされた静寂の世界。

ほしあ て こだい とうぎじょう
星明かりだけが照らす古代の闘技場は、

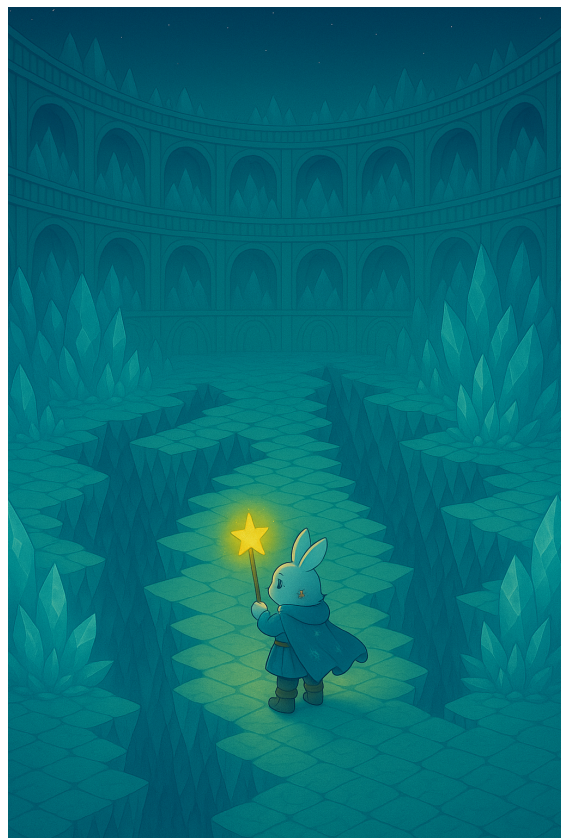
むすう ひょうちゅう かこ ふか さ め めいろ
無数の氷柱に囲まれ、深い裂け目が迷路の

ように走っていた。クリスは、星の杖を胸元で

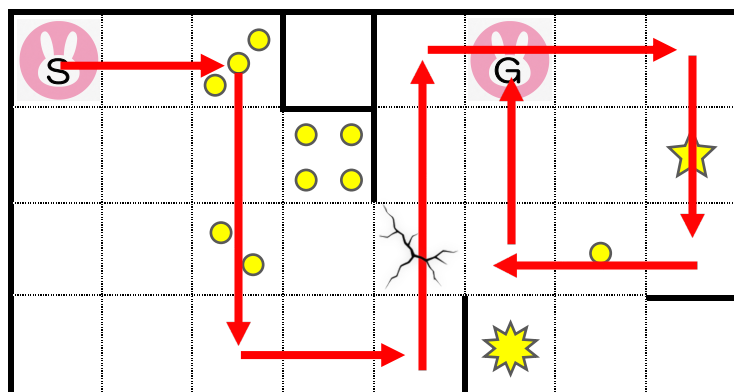
にぎ 握りしめ、しず 静かにいっぽ 一歩を踏み出す。その瞳は

ゆ 揺らぐことなく、とお み うんめい たたか
遠くに見えぬ運命の戦いへと

む 向けられていた。



<例>



★ Star : 11、Move : 8



… ひびのはい ゆか
ひびの入った床。

いち ども とお ほか ゆか いっしょ
一度目に通るときは他の床と一緒に。

とお ゆか くす とお
通ったあとは床が崩れ、通れなくな

る。かべ のあるマスと同じで、おな すす
壁のあるマスと同じで、進もうと

すると、てまえ と
すると、手前で止まる。



…スタート、



…ゴール

ほし
星のかけら

1, 2, 3, 4…

5, 10… ★, ★★

しょうげさゆう すす
上下左右に進めます。マス目は全て

こおり ゆか かべ ふとせん あ と
氷の床で、壁(太線)に当たるまで止

まれません。と ほうこうてんかん
止まったら方向転換が

できます。ゴールもどうよう
同様に、ゴールの

うし かべ つうか
後ろに壁がなければ通過してしま

ます。ごうけい かすぶん ほし
合計で「Star」の数分、星のか

けらを集め、あつ いどうすう
「Move」の移動数で

ゴールしましょう。

<エピソード1：おうし座>

～氷角の守護獣～

こおり おお きょだい とうぎじょう たか
氷に覆われた巨大な闘技場。高くそびえる

かんきゃくせき こお せいじゃく つつ
観客席は、凍りついたまま静寂に包まれて

ちゅうおう ひょうしょう わ
いる。中央の氷床がひび割れ、そこから

あらわ あおじろ かかや おお つの も
現れたのは、青白く輝く大きな角を持つ

おうし げんじゅう
牡牛の幻獣だった。

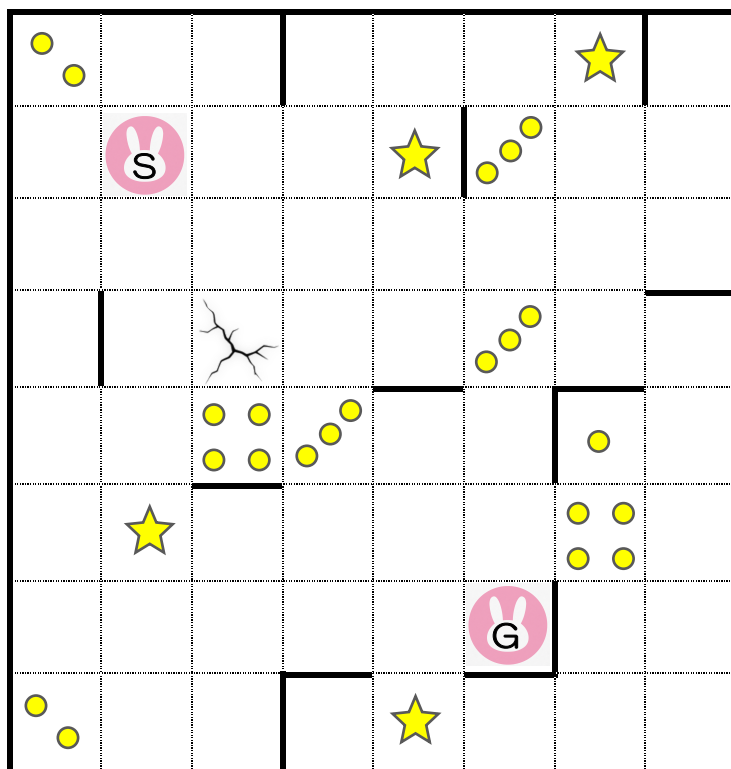


は いき しろ あし ふ な こおり
吐く息は白く、足を踏み鳴らすたびに氷の

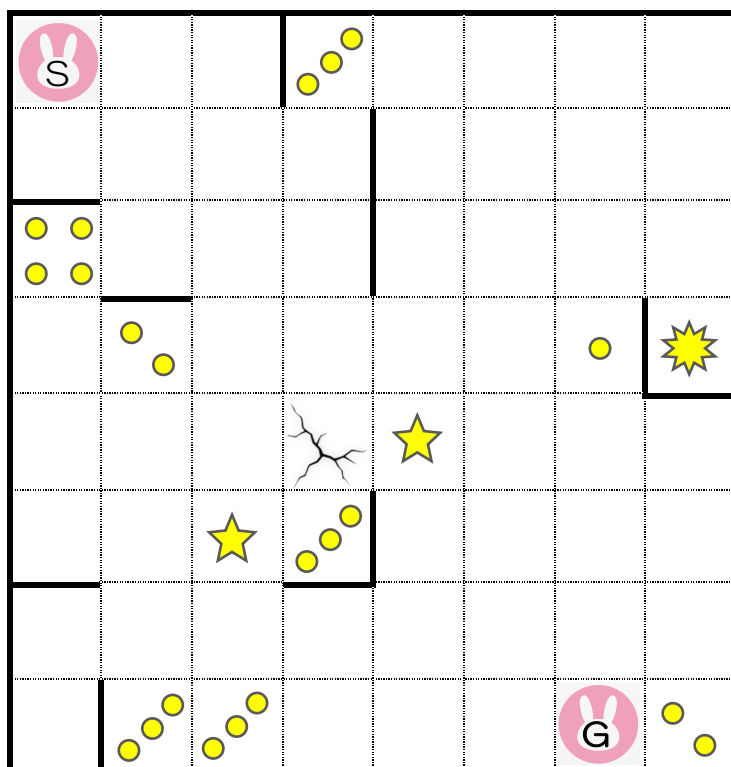
はへん ま あ つえ かま いっほ
破片が舞い上がる。クリスは杖を構え、一步

ひ きょたい み す こおり だいち
も引かずにその巨体を見据える。氷の大地

ゆ げきとつ はじ
を揺らす激突が、いま始まろうとしていた。



Star : 20、Move : 11



Star : 20、Move : 10

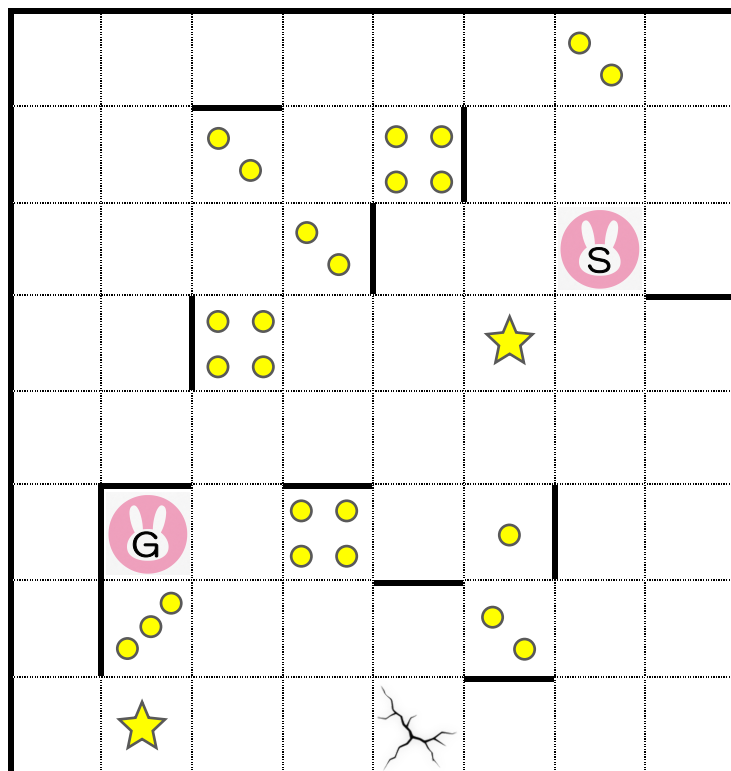
<エピソード2：いて座>

くだ ふるはし
～砕けゆく古橋～

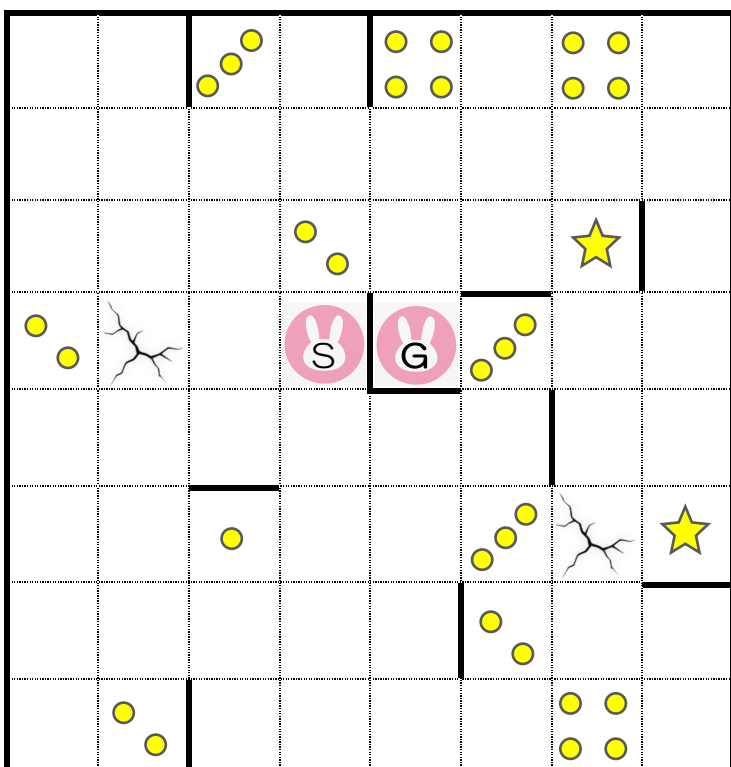
ふか こおり きょうこく ほそ もろ はし いくえ
深い氷の峡谷に、細く脆い橋が幾重にも

こうさ うえ た かげ はんじんはんば
交差している。その上に立つ影——半人半馬

しゃしゅ しず ゆみ ひ しほ
の射手が、静かに弓を引き絞った。



Star : 20、Move : 10



Star : 20、Move : 11

こおり や おうこん ひかり やど ひょうてき のが
氷の矢じりが黄金の光を宿し、標的を逃

するど さぬ 鋭さでクリスを見据える。谷底から吹

あ つめ かげ あいだ こうき
き上がる冷たい風が、ふたりの間の空気を

は つ つぎ しゅんかん や はな
さらに張り詰めさせる。次の瞬間、矢が放

こおり たたか はじ
たれ、氷の戦いが始まった。

<エピソード3：氷の三銃士1>

～氷甲冑の騎士～

極北の空に揺らめくオーロラが、静かに

大地を照らしていた。しかし、その美しさ

の前に立ちはだかるのは、巨大な氷の鎧を

まとった騎士。その盾には雪の結晶の紋章

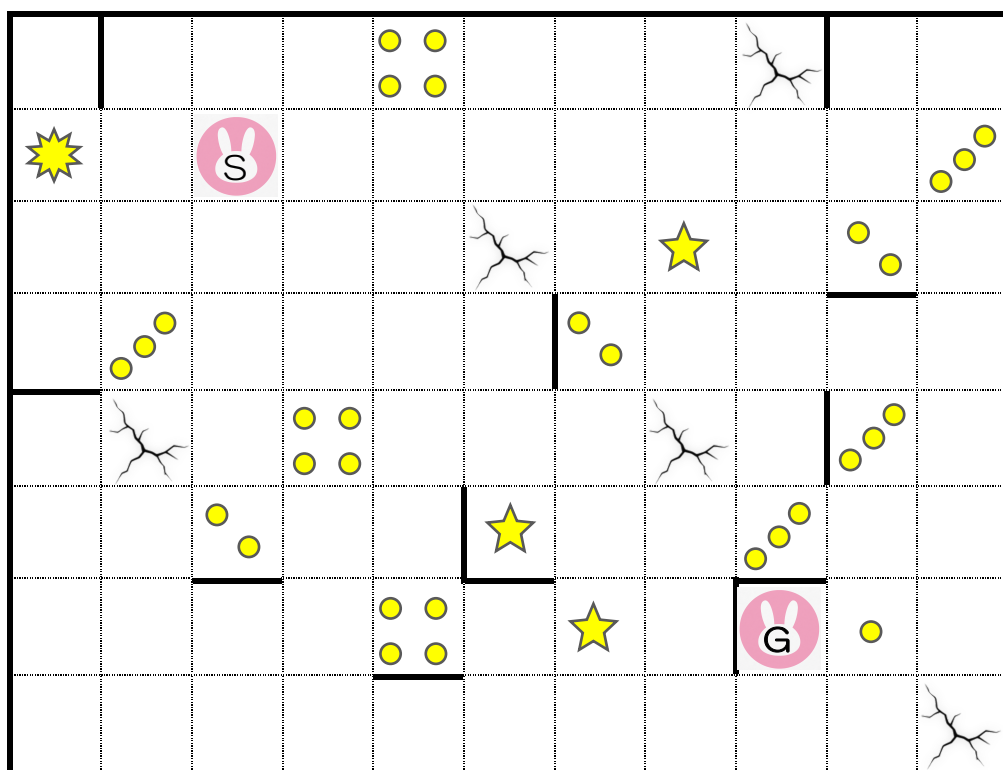
が刻まれ、全身から凍てつく威圧感が漂う。

城塞の門を守るかのように立つその姿は、

一歩も退く気配を見せない。

クリスは杖を握りしめ、深く息を吸い込み、

冷たい決戦の幕が上がる。



Star : 20、Move : 15

<エピソード4：氷の三銃士2>

～氷冠の女王～

オーロラが夜空を彩る中、城壁の奥から

現れたのは、氷の王冠を戴く女王。

その姿は幻のように美しく、しかし目に

宿る光は冷たい刃のように鋭い。

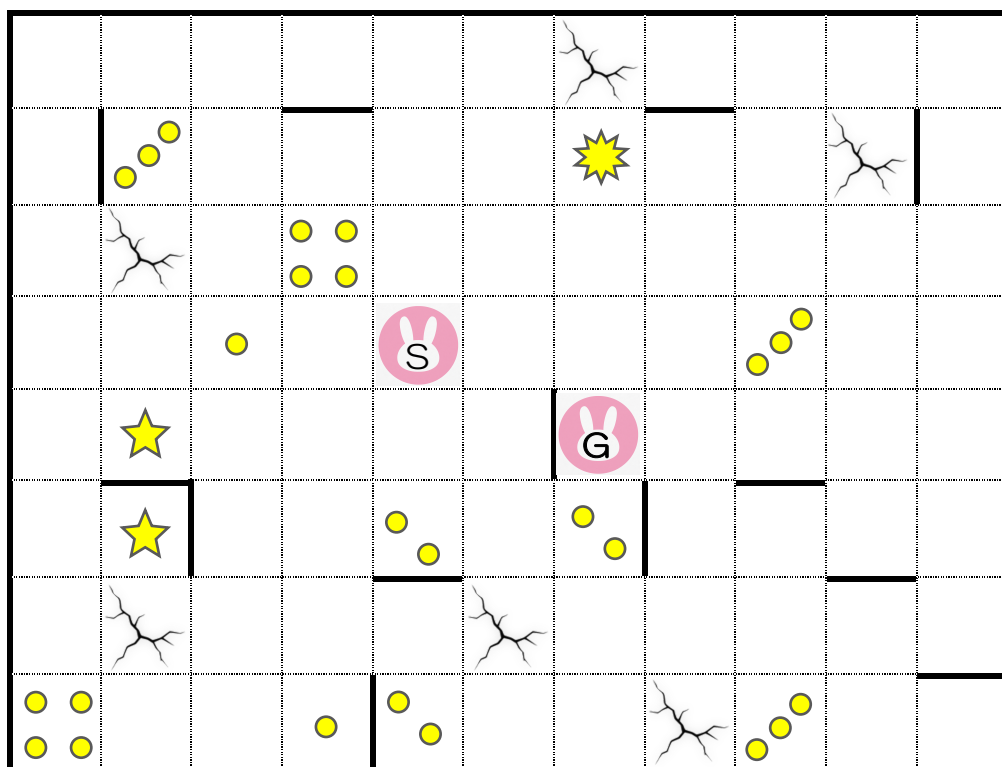
女王の手に浮かぶ巨大な雪の結晶が、周囲

の空気を一瞬で凍りつかせる。背後には氷

の槍を構えたもう一方の手、容赦なき一撃を

放つ構えだ。クリスは足場の裂け目を見据

え、逃げ場なき戦いに挑む覚悟を固めた。



Star : 20、Move : 18

<エピソード5：氷の三銃士3>

～氷牙の魔狼～

つきあ 月明かりがさし込む氷の森。巨大な

すいしょうちゅう 水晶柱のあいだから、ほし 星の光を宿すけっしょう 結晶

あわ かがや 輝いている。しかしその光をさえぎ 遮る

ように、氷の角を持つ魔狼が茂みから飛び

だ 出した。するど 鋭い牙が月光を反射し、ひく 低くひびく 響く

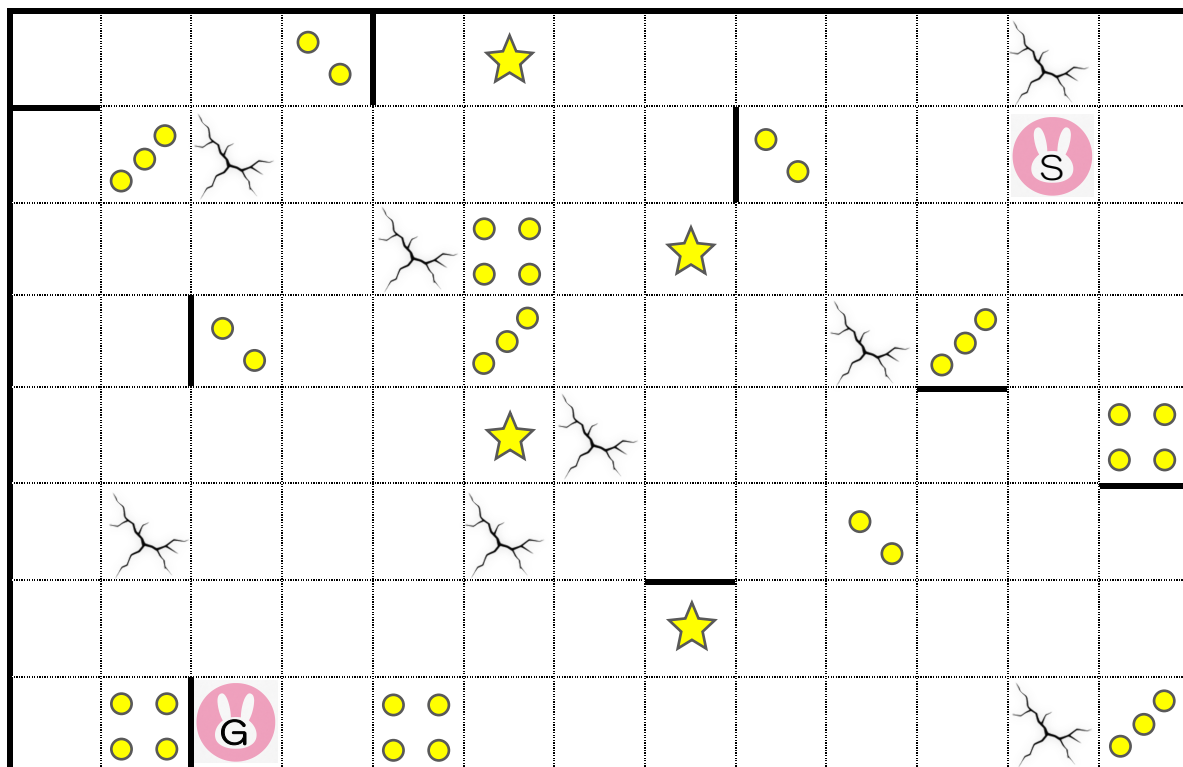
ほうこう 咆哮がもりぜんたい 森全体をふる 震わせる。

はいご 背後のけっしょう 結晶にふう 封じられたほしほし 星々をまも 守るよう

に、おおかみ 狼はいっぽ 一歩もしりぞ 退かぬかま 構えを見せる。

クリスはつえ 杖をつよ 強くにぎ 握り、せま 迫りくるかげ 影へとまっ

すぐにあし 足をふみ 踏み出した。



Star : 30、Move : 18

＜第3巻 エピローグ＞

～星の見える峠にて～

なが たび すえ ほし み とうげ つ
長い旅の末、クリスは「星の見える峠」へとたどり着いた。

やまやま む よる おとす す そら むすう ほし またた
山々の向こうに夜が訪れ、澄んだ空に無数の星が瞬く。

なか つよ かがや いっとうせい しず み お
その中でひととき強く輝く一等星が、静かにクリスを見下ろしていた。

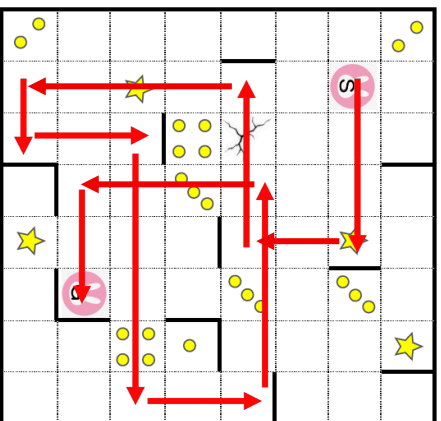
たたか きんちょう と むね す こ くうき つめ
戦いの緊張が解け、胸いっぱい吸い込む空気は冷たくもやさしい。

ほし か ご むね ちい ほほえ
星の加護を胸に、クリスは小さく微笑む。



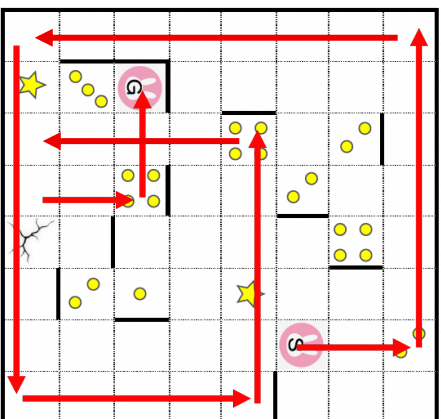
＜ 解密 ＞

Ep 1 ,



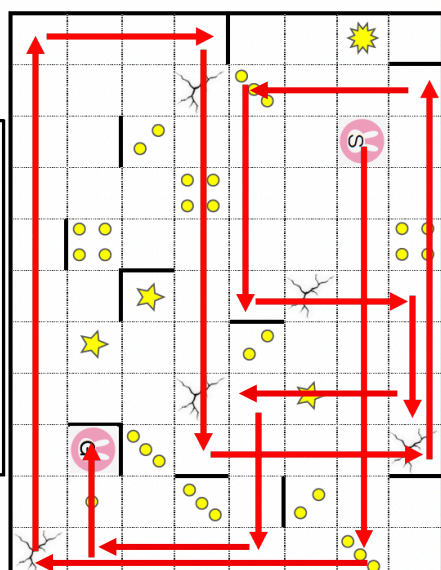
Star : 20、Move : 11

Ep2 ,



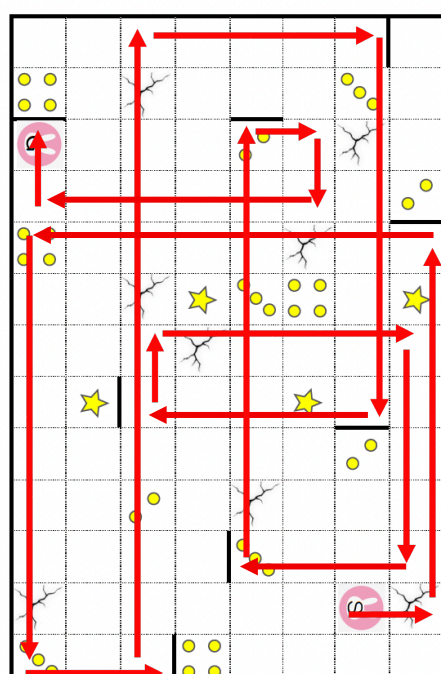
Star : 20、Move : 10

Ep3 , Ep4 ,

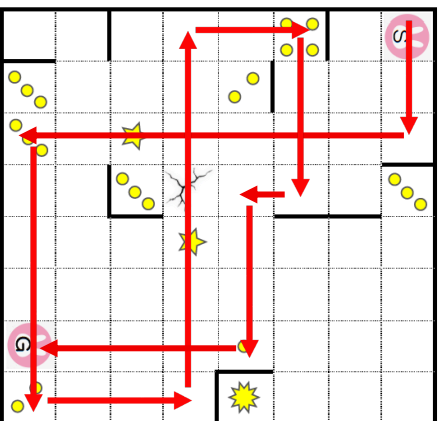


Star : 20、Move : 15

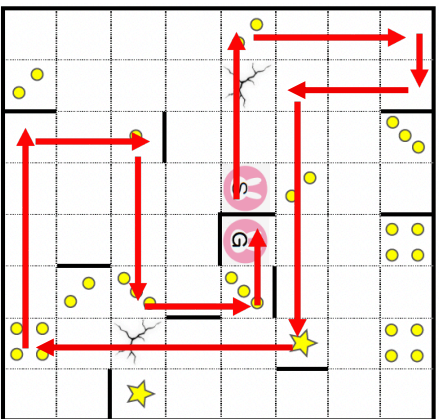
Ep5 ,



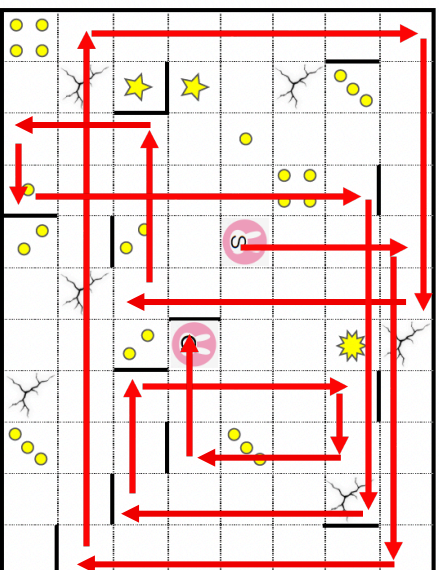
Star : 30、Move : 18



Star : 20、Move : 10



Star : 20、Move : 11



Star : 20、Move : 18